

NZSJ は 1959 年 11 月から数えて、今年は創立 58 年目を迎えております。

日本ニュージーランド協会ニュースレター
NEW ZEALAND SOCIETY OF JAPAN

W A I H E K E

2017 年 9 月号

HP: <http://nzsj.tokyo>

六義園散策と東洋文庫ミュージアム訪問

一昨年の上野の清澄白河、昨年の上野に引き続きアウトドアを計画しました。今年は、駒込駅付近にある「東洋文庫ミュージアム」と「六義園」を見学します。秋のひと時をお楽しみ下さい。

日時：2017 年 10 月 29 日（日）13：00 集合
昼食は済ませてご参加ください。

集合場所：「東洋文庫」 入口前

駒込駅（JR 山手線南口、東京メトロ南北線 2 番出口）徒歩 8 分

千石駅（都営地下鉄三田線 A3 出口）徒歩 7 分

会費：なし

ただし、各施設の入館料は各自負担をお願いします。

東洋文庫ミュージアム 入館料 900 円（一般）、800 円（65 歳以上）

六義園 入園料 300 円（一般）、150 円（65 歳以上）

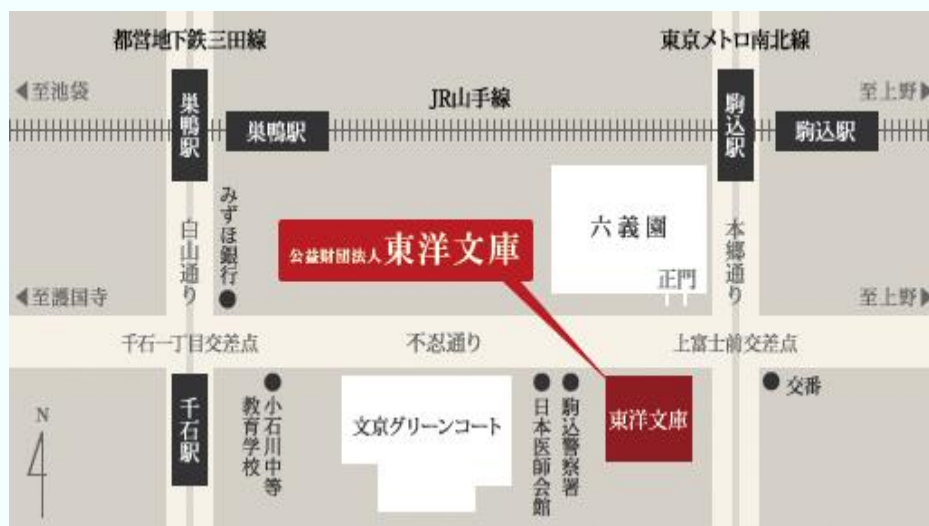
行程予定

13：10～14：20 東洋文庫見学

14：30～15：40 六義園散策

※ 参加希望の方は 10 月 25 日（水）までにお知らせ下さい。

連絡先：日本ニュージーランド協会公式メールアドレス: nzsj@outlook.jp



・東洋文庫

広くアジア全域の歴史と文化に関する東洋学の専門図書館ならびに研究所で、世界 5 大東洋学研究図書館の一つに数えられています。三菱第三代当主の岩崎久彌(1893～1916)が中華民国の総統府顧問のジョージ・アーネスト・モリソン(1862～1920：オーストラリア出身)の所蔵する、中国に関する欧文文献のコレクション(モリソン文庫)を購入し、さらに和書・漢籍をはじめとする東洋諸言語文献を収集し、1924年に設立されました。2017年8月16日～2018年1月8日にモリソン文庫渡来100周年を記念し、東方見聞録展・モリソン文庫の至宝(在日オーストラリア大使館、日・豪・ニュージーランド協会後援)が開催されており、「東方見聞録」、「アヘン戦争図」などの有名資料が公開されています。

・六義園(りくぎえん)

東京都の文化財庭園の一つである日本庭園で、季節ごとの様々な種類の花を楽しめます。元禄8年に五代将軍の徳川綱吉から下屋敷として与えられた地に柳沢吉保が設計し指揮をとり、平坦な地に池を掘り、山を築き7年の歳月をかけて造り上げた回遊式築山泉水庭園です。

NZSJ 7月定例会報告

7月29日(土)、ホテルパークサイド(上野)10階のバーラウンジ・パークトップにおいて、NZワインパーティを開催しました。初めて例会に出席頂いた方を含めて、20名の会員の方々が出席され、大変な盛会となりました。クーラーが気持ちよく効いたラウンジから、眼下に広がる不忍池や上野の森の木々の緑を見ながら、よく冷えたNZワインと美味しい料理を堪能しました。

食事の後、デザート時間に、神谷氏のご友人で、ケーナ演奏家・作詞家の八木倫明さん(通称：やぎりんさん)が、ニュージーランド・マウリ族のラブソング「ポカレカレ・アナ」の歌と、そこに流れる恋物語を披露して下さいました。

NZSJ 庄司 桂一郎



季節のご挨拶(2016年) - その5 -

年2回の帰国

今年も2月と8月の2回、帰国しました。2月には確定申告と築120年に近づいた高山の家の雪下ろし、8月はお盆が主な目的です。しかし、この帰国を利用して健康管理のため、気になるところをチェックしてもらいに、それぞれ病院通いをします。幸いにして、どちらも健康面では大きな問題はありません。帰国中にはJはクライアントとせっせと会いに出掛けます。もちろん古くからの友人たちとは旧交を温めています。

忙しいのですが、この日本への帰国に合せて、国内外へも旅しました。1月中旬に出発して、Jの兄さんの奥さんの60歳のお祝いにスペインへ行き、マドリッド、パルマ、バルセロナに行きました、その後、ポルトガルに足を延ばしポルト、マドリッドリスボンにも行きました。フリーマイレージで2月末には、韓国・プサンにも行きました。国内では京都、信楽、奈良の古い伝統的な姿を楽しみました。8月の帰国の際には、外国ではフランス・パリへ行きました。前年のテロの影響か、観光施設はそれほど混んでいませんでした。国内では、稲沢、多治見、天橋立(宮津)、城崎温泉、伝統的建造物群保存地区の舟屋、浦嶋神社(伊根町)へと行きました。日本海の青さは印象的でした。

国内外と旅していますが、まだ体力的には大丈夫です。NZと日本の飛行時間は約11時間です。NZの家では映像が見られないので、機内では久しぶりの映画が見られ、飲み物も食べ物も出してもらえるので、退屈しません。ヨーロッパへの飛行時間は、これとほぼ時間ですから特に辛いとは思いません。来年の1月には再びフランス・パリに行きます。このところヨーロッパによく出掛けるのは、古いもののないNZへの反動でもあります。

スリに遭う

パリ滞在もあと一日となった日、昼前のモンパルナス駅の人ごみでJはスリの被害に遭いました。8月末から9月初めにかけてフランスのパリを旅しました。もとよりパリの治安がよくないことは聞いていました。地下鉄の駅構内では、日本語でスリに気をつけるようにアナウンスされている駅もあります。Jは被害に遭ったその朝、美容院で髪を切り、ホテルのフロントで新しい髪形を褒められたりして、気分もルンルンの日でした。滞在も10日目となり、何事も起こらず気が緩んでいた時の災難です。Jの人間にそんな悪い人はいないという思い込みもこの日は悪い方に転びました。

西部と南西方面への国鉄の始発駅のモンパルナスは、スリの多いことでも有名です。宿を出て地下鉄でこの駅まで行き、エッフェル塔への地下鉄の乗り換えに長い通路があります。どうもここでバックパックの外ポケットに入れてあった財布を盗られたようです。乗り換えした地下鉄の一駅目を過ぎたところで気づきました。かなりの金額のユーロが入っていました。

この日は警察への被害届、クレジットカードや日本の在留カードの紛失手続きで終わってしまいました。フランス在住のJの友人にことを告げると、「日本人、特に女性はよくスリの被害に遭うのよ。Jは本当に日本人みたいね」と変な褒められ方をしてしまいました。来年の1月には再びフランスへ行きます。今度は冷静にスリの行動を観察してみたいと思っています。

これは奇跡か？

今年の1月、ポルトガルのリスボンにいました。国立古美術館の室内の展示もほとんど見終えたあと、テラスがあり、ひと休みをしようとした時のことです。ほとんど海といってもいいような広い川幅の向こうに小さく立像が見えます。目を凝らして見ると、リオデジャネイロにあるキリストの像に似ています。持ってきた望遠鏡で確かめてみることにしました。ところがバックパックの中をどれだけ探しても見つかりません。館内のベンチに座ったときに置き忘れたのかとも思い、引き返してみましたが見当たりません。入館受付で尋ねてみると、何とそこに届いていました。

望遠鏡で見ると、やはりキリストの立像でした。もしテラスに出ず、この像にも気づかなかっただら、望遠鏡はリスボンに置いたまま、無くなってしまったかもしれません。これはキリストの奇跡なのか、と考えてもみました。

旨いもの

この夏、日本で生まれて初めて口にしたものがあります。それは京名物の鰻(はも)。滞在中に偶然にも2回も食べられました。味を旨く表現できませんが、美味。私たちはグルメというほど食べ物にお金をかけたことはありません。シンプルで、それほど値の張らないものを楽しんでいます。日本から持ってきてもらった高級のり、これはぱりぱりして本当に旨かった。冬に行ったポルトガルのファドを聴きながら吞んだポルト、フランスのオムレツとエスカルゴ、そして毎朝、焼きたてのバゲット(フランスパン)。6時頃から店を開くパン屋で求めて、毎日のように食べました。

これまでは、一年中ビールを吞んでいましたが、冬になると流石にビールは体が冷えることから、ワインを吞み始めました。適当に選んで吞んでいますが、時としてこれはというものに巡り合えています。旨いものに、これからもいろいろと出会いたいものです。

空港での出来事

2月の日本への帰国からNZへ戻ったのが3月4日の早朝です。NZの動植物検疫は厳しいことで有名ですが、ここで事件が起きました。今回のフライトは成田からオークランドまでの直行便だったため、成田で免税品の日本酒を2本買いました。直行便でないとアルコールを含む液体物の機内への持ち込みは出来なくなりました。赤いデザインの紙袋に入れてもらいました。

NZに着き、動植物検疫の口頭でのチェックも無事に終わり、最後に荷物のレントゲン検査があります。私たちの荷物は多く、8個ほどがありました。Hがベルトコンベヤーに、免税品の赤い紙袋を最初に乗せました。その後、バックパック、デイパックを乗せ、レントゲン装置の先にある受取りに向いました。ところがおかしなことに最初に乗せた赤い紙袋がないのです。夜を越えたフライトだっただけに、頭も少し混乱しています。どうしたのか考えてみると、ベルトコンベヤーのHの前の日本人と思われる年配の男性が、本人の分と一緒にHの紙袋も持っていったと考えるしかありません。ベルトコンベヤーの先は、ロビーへの出口で、一旦ロビーに出てしまうと逆方法に戻ることは禁止されています。

自分の荷物が持ち去られたと、レントゲン検査をしている係員に言いましたが、肩をすくめるだけ。Jによれば笑っている係員もいたとか。すべての荷物をまとめ、上役と思しき男性職員に事情を話すと、まずロビーに出て待っているように言われ、従いました。

しかし、どれだけ待っても動植物検疫所のドアは開きません。待つ間に空港のヘルプデスクで警察へ連絡してもらいました。私たちにとっては、今回のことは間違いなく盗難と考えました。すぐには行けないので、空港で待てというのが警察からの指示でした。30分近くしても何もないので、動植物検疫所のドアのベルを押しました。そして得られた結果は、「Hの前の男が持っていくのをビデオカメラで確認した、検疫所には責任はない、警察に連絡してくれ」と話すと一方的にドアを閉めてしまいました。いつものこの国の典型的な自己保身に徹するお役人の態度です。

警察へは、こちらから行きました。国際線と国内線のちょうど中間のところにあり、歩いて5分ほどのところにあります。ここでの対応は、荷物を持ち去った人物を探すというよりは、紛失物品が保険でカバーされときの証明書づくりのようなものでしたが、動植物検疫所のお役人と比べたら、ずっとましなものでした。

空港には到着いたというのに、家に着いたのは夕方になっていました。メールを確認すると旅行代理店からメールが入っていました。荷物はロトルアの空港にあるというもの。同時に警察からの電話もありました。翌々日に2時間先にあるロトルアの空港に行き、無事、荷物を取り戻しました。開けてみると日本酒2本、コート、マフラー、それに搭乗券が入っていました。この搭乗券が決め手となり旅行代理店からメールがあったものと思われます。残念ながら持ち去ったと思われる日本人の男性からのお詫びのメッセージは残っていませんでした。何とも基本的なマナーが劣化したものです。

空港の警察で事情聴取の始まる前に「ニュージーランドを安全に旅行するための注意事項」という冊子を手に入れました。これを読んでも動植物検疫所は無法地帯とは書いてありません。NZに来られることがあれば、自分の荷物は自分で守るようにしてください。

8月の帰国の際には、同じように免税品を買いましたが、紙袋を裏返しにして他の免税品のものとは違うようにしましたし、レントゲン検査には前に人との間を空け、紙袋もいちばん最後に乗せました。

海外からのお客さま

今年はたくさんの人たちに、わが家に泊りがけで来ていただきました。日本から2組2人、豪州から1組2人、台湾から1組3人となり、滞在延日数では80日を越えました。滞在していただいている間は、冷蔵庫やパントリーの食材は自由に使っていただき、電子レンジやガスを使って、好きなように料理してもらっています。これは、わが家だけのやり方ではなく、ここではみんながこのような方法でお客さまを迎え入れています。とは言うものの、夕飯だけは何とか私たちが作っています。

このようなシンプルなおもてなしですが、どうか時間を作って、お出掛け下さい。特にお願いしたのは、2月と8月にそれぞれ1ヶ月以上、家を空けます。その間の留守番をしていただける方があれば、ご連絡下さい。

本の出版

経済産業調査会（東京・銀座）から執筆依頼のあったビジネス英語の本については、遅くとも来年には出版に漕ぎ着けたいと思っています。本のタイトルは「いざという時、この英語」（仮称）で、JとHとで手分けして書いています。

Jの仕事

決まった仕事は、今年も週2回の「総理の一日」の翻訳です。それ以外には、決まったものではなく、不定期に福祉、経済、医療関係のものの日本語から英語への翻訳をしています。去年は e-book（電子書籍）として「英会話力がアップする英語のことわざ」を世に送り出しましたが、今年は、タイトル「日本人がよくする英語の間違い」を新たに編集中です。

もう一本くらい核となる仕事がしたいところです。何か日本語を英訳したい、又は英文校閲をしてほしいとのお考えがあれば、是非ともご相談下さい。

童話

H が 2013 年から書き続けてきた会話中心の大人向け童話が、この 10 月によりやくにして完成しました。全 18 章からなり、J の姉さんをモデルにしたフィクションで、英訳も行っています。

11 月からは、今度は J をモデルにしたもので、「ドンベとマリオ」というタイトルにしました。岡山で毎月発行されている同人誌に掲載しています。締切は毎月 10 日で一ヶ月 A4 版で 2 枚のペースで書いています。締切があるお蔭で四苦八苦しながらも何とか書いています。

絵を描く人は、対象物を見て絵筆で表現します。物語を書くには、鉛筆で物や心理をスケッチする能力が問われます。難しいですが、新鮮で面白いものがあります。

お隣との付き合い

わが家のお隣は全部で 6 軒あり、すべて境界はフェンスで区切られています。このうち丘の上に位置するお宅から、自噴する泉の水をもらい生活用水として利用しています。泉から 300m ほど黒パイプで引っ張り、途中に 2.4 立方メートル（直径 1.6m、高さ 1.2m）のタンクがあり、そこから再び黒パイプでわが家に配水しています。タンクはわが家の 2F よりも高いところにあるので、自然圧で 2F まで水が届きます。水と土地の使用料とも只で利用してきました。このお隣の所有者が代わり、どうなるか心配していましたが、これまで同様に使わせてもらえることになりました。

入口ゲートのところにある隣人のお宅には、小学校 2 年生になる女の子が祖父母に育てられています。朝は祖母がスクールバスの集合場所まで送っていきませんが、下校の時間にはそれが出来ないで、女の子は一人で歩いて家まで帰ってくるようになります。しかし途中に怖い犬がいて、その犬を避けるのを考えた結果、わが家の急傾斜のパドックを通ることを思いついたのです。通ってもいいか尋ねられましたので、もちろん承諾しました。ここを通れば怖い犬に遭わなくて済みます。しかし元々の牧草地ですから、草が伸びると 1.5m ほどになります女の子の背丈よりも遥かに高く、ジャングルのようなところを登って帰ってきます。

日本レストラン

H が 60 歳の時に作成した「60 歳からの 10 年計画」というものがあります。この中に日本レストランの構想も書き込まれています。NZ の食生活、食文化を眺めていると、【たくさん食べることはいいことだ】というものがあります。レストランでの料理の量は半端ではありません。肥満度世界第 5 位という数字が、それを物語っています。

ずっと日本レストランを開きたいと思ってきましたが、11 月によりやくにして実現しま

した。コンセプトとしたのは、油分や量を減らす、日本料理を取り入れる、わが家の無農薬有機栽培野菜を活用する、食べ残しのないようにするといったものです。食べ残しのないということでは、ここの方式はいいです。各種の料理の大皿から好きなだけの量を自分の皿に装い、食べるというものだからです。ただ気になるのは、いろいろな味付けの料理を一つの皿に盛り、ぐじゃぐじゃにして食べるからです。そこで、日本料理のように料理ごとに器を別のものにしました。

メニュー

ピピの佃煮 地元の海辺で採った2枚貝を佃煮にしたもの

冷凍野菜の煮物

天麩羅 エビ、サツマイモ、ニンジン、ワラビ、レンコン

おにぎり

デザート モモの煮込んだもの

招待したのは古くからの友人で、農業機械の修理などを気安く引き受ける人とそのパートナーにしました。好評でしたので、これからもこうした機会を開いていこうと思っています。

日本図書館

開店休業状態にあります。何とか時間を作り、ホームページの開き、ぼちぼちと活動を開始したいと思っています。過日、アートギャラリーに行くと日本図書館のことを尋ねられました。2年前にオープンした時の新聞記事を覚えていてくれた人からでした。

住んでいる町・パエロア

パエロアという町の郊外に住んでいます。先住民のマオリの言葉では、パエロアとは長い分水嶺、長い山並みを意味します。その山並みの西向きの丘に家があります。平坦地の少ない北島にあって、広大なハウラキ平野と東側の山並みとから町は成っています。人口は3,900人、総人口が私たち2人を含めて430万人の国にあっては、これだけの人口でも、それなりの存在感があります。主な産業は酪農です。町を国道2号線が東西に走り、この国第一の人口の都市オークランド、第四の都市ハミルトン、第五の都市タウランガまで、それぞれ1時間半以内に行ける便利なところにあります。

交通信号がない、ラウンドアバウトがない、エスカレーターがない、エレベーターがない、タクシーがない、バスがない、鉄道がない、地下鉄はもちろんない、コンビニがないなど、ないない尽しですが、それでもスーパーマーケットがあり、役所、医療機関、図書館、警察などもあり、基本的な日常生活には支障をきたしません。24時間営業のマクドナルドがあり、ここだけが少しだけですが町っぽさの威容を誇っています。町では作業用の長靴を履いた男たちの姿をよく見かけます。Hもその一人です。

短くしようと思ったのですが、更に長くなってしまいました。最後までお読みいただき、どうもありがとうございました。

2016年12月

アオ テア ロア（長く白い雲のたなびく国） ニュージーランドより

NZ協会 ジリアン・ヨーク理事

次回予定 2017年12月

NZ クリスマスパーティー

年会費納入お願い 会員の方は2016年度の年会費 3,000 円を例会ご出席時にお支払い願うか、郵便局でお振込み下さい。振込はゆうちょ銀行 記号 10180 番号 74818531 名前 ニホンニュージールランドキョウ。なお郵便局の振替用紙（払込取扱票）を用いるときは口座記号番号：00190-1-743478 加入者名：日本ニュージーランド協会をお願い致します。

NEW ZEALAND SOCIETY OF JAPAN（日本ニュージーランド協会）

2017年度理事（会長以外は50音順）

会長：山崎 弘子 理事：麻生 敏子、生沼 玲子、真島 由香、佐藤 松雄、
島田 勝弘、庄司 桂一郎(副会長)、丸山 有紀子（会計）、水野 伸夫(副会長)、
Jillian Isabelle Yorke 監事：梅谷 要 顧問：黛 雅男